

2021年2月28日主日礼拝

大井バプテスト教会

説教題「ほんの一部分しか知らない」マタイ16章21～28節

主任牧師 加藤 誠

「すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。『主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。』イエスは振り向いてペトロに言われた。『サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。』(マタイ福音書16章22～23節)。

主イエスが「自分は迫害を受け、拒否され、殺される」ことを弟子たちに打ち明け始めた時、ペトロは驚いて主イエスをわきに連れ出し、いさめ始めました。

ペトロはこれまでずっと主イエスと寝食を共にし伝道活動のお手伝いをしてきて、主イエスの「父なる神」との結びつきの深さ、人びとに対する慈しみの深さ、その口から出る言葉と行動の力強さを間近で見えてきて、「この方こそ、神が私たちのために送ってくださったひとり子、メシア(救い主)に違いない!」との確信を深めていましたから、「真のメシアである主イエスがそんなひどい扱いを受けて、殺されるようなことがあってはならない!」ととっさに反応したのだと思います。

「真のメシアは、人びとの不信仰をただし、人びとを神との正しい関係に導く方である」。それはつまり「今、主イエスに対して敵愾心をむき出しにしている長老、祭司、律法学者たちが、いずれは自分たちの間違いに気づき、主イエスの前にひれ伏すようになるべきだ!」とペトロは考えていたのだと思うのです。最後には人びとの憎しみに勝利し、イスラエルの国すべての人びとから尊敬を勝ち得て賞賛をうけるべき真のメシアの主イエスが、まさか迫害を受けて拒否され、殺されるようなことは絶対にあってはならない!」。それはペトロをはじめ、弟子たち全員の思いだったのではないのでしょうか。

しかし、そのペトロは主イエスから「サタン、引き下がれ。あなたはわたし邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」という厳しい叱責を受けます。「引き下がれ」というのは、「邪魔するな。わたしの前からどいて、わたしの後ろに回れ!」という意味であり、「サタン」というのは「神の意思とは正反対にいる者」という意味ですから、その厳しい言葉はペトロの弟子としてのプライドを粉々に打ち砕くものだったに違いありません。これだけ主イエスと道行きを共にし、労苦を共にしてきたのに、自分は主イエスのことを何も理解できていなかった。主イエスの表面的な、ほんの一部分しか知らなかった。主イエスが心の奥深い所でどんな祈りを神さまの前にささげ、神さまからの召命を受け取っていたかをまったく理解できていなかった。その事実深く打ちのめされたのではないかと思います。

「人を知る」とはどういうことでしょうか。よく「表の顔」と「裏の顔」という言い方がされます。表と裏を持っているのが私たちです。また同じ屋根の下で暮らし、同じ職場にいと、その人の行動の特性や癖のようなものは把握できるようになりますが、心の奥に秘められた思いまでは理解できていないことが多いのではな

いでしょうか。たとえば家と職場とでは「まったく違う人」の場合もよくあることで、家族は当人の学校や職場での姿をほとんど知らなかったりするものです。

私たち一人ひとりのことをほんとうに知っておられるのは神さまのみ。神さまはわたしの裏も表もすべてを知ったうえで祈ってくださっている方。ですから主イエスは「あなたが祈る時には、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい」(マタイ6・8)と教えられました。

レニー先生も「トイレがわたしの祈りの場所だった」と言っておられましたけれども、「神さまはすべて知っているのだから、祈らなくてもよい」ではないのです。すべてを知ってくださっている神さまに、わたしが自分の弱さも恥ずかしさも包み隠さずすべてを語り始める時、神さまとの間に深い「絆」(信頼と安らぎの絆)をいただいでいくのです。

ペトロは、主イエスが神さまから受けているメシアとしての召命について理解しきれていませんでしたが、同時に自分自身の召命も理解しえていないペトロだったのではないのでしょうか。主イエスから「わたしに従ってきなさい。人間をとる漁師にしよう」と言葉をかけられた時も、その意味が理解しきれたから従ったのではないでしょう。主イエスに従えば従うほど「主イエスのようになりたい!」という思いが強くなる一方で、「とても主イエスのようにはならないダメな自分」を知らされていったのではないかと想像します。主イエスに近づけば近づくほど、自分の中のどうしようもない不信仰をますます知らされ絶望し、沈むほかないペトロだったのではないか。では、いったい自分には何ができるのだろうか。特に十字架の前にペトロの信仰が粉々に砕かれた時、そのペトロをもう一度立たせてくださる主イエスの深い慈しみに触れて、ペトロは自分に対する神の召命(砕かれ、新しく生かされた恵みの証言者として生きる道)を知らされたのではないかと思うのです。

「レニー先生はどうして日本の宣教師に志願されたのですか?」。恵護先生に尋ねるとサウスウエスタン神学校で学んでいる時に、日本音楽に興味をもったことがきっかけだったようです。さらに日本人留学生との出会いがあつて日本への思いが強められたと。けれど実際に日本に来て西南学院大学で英語講師として働くように命じられたものの、願っていた教会音楽の働きができないことに深く失望し、最初の長期休暇時に「辞任」を考えられたようですが、その時に大谷賢二先生から大井教会の教会音楽のために働いてほしいという熱いラブコールを受け、そこに神さまからの召命を受け取っていかれたようだと言いました。

私たちは、愛する隣人のこともほんの一部しか知らないし、自らに向けられた神さまの召命もほんとうのところでは知りえていないように思います。けれども、その私たちの裏も表も知り、弱さも特性もよくご存知の上で、私たちが用いられる道を信じ、祈り続けてくださっている主がおられます。この主と共に歩ませていただく恵みをしっかりと受け取り直していきたいのです。